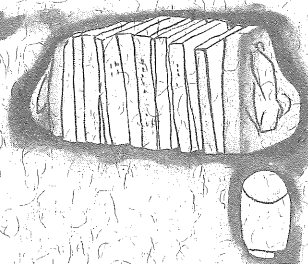




HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	都市社会調査項目要旨
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	資料作成年不明（システムの制約のため、発行日には没年を入力した）
Issue Date	1956
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77357
Type	manuscript
File Information	N040_0131111S31.pdf





Note Book

Made of paper
Specially prepared in Tokyo

都市社会调查项目要旨

昭和三十年十一月一日



$$\frac{1}{10} \frac{1}{12}$$

(一) 邦交の回復の調査

その都市が、
1882
12²⁸
28²⁸
12²⁸
28²⁸

都布かいとんたふかむうけて

耳か、又下
孫に交し
とんな
夏

落石の石を
石の石を

[illegible]

の
同
中
の
要
旨
を
要
す
即
ち
入
新
市
は

紅毛の校
園の傳
まゝ
で
す。

原落
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

今級果落比今也

知カノ関係を以て界に於てある。

① この調査は、
 調査の目的は、
 調査の範囲は、
 調査の方法は、
 調査の結果は、
 調査の意義は、

としてこのつなかりこゑその都市の
 都市としての機能を生かすこと
 とある。

調査の技術的考察
 調査の技術的考察
 調査の技術的考察

にある各種機関についてその国
 際互恵的なこと

各種機関とその関係

統治機関治安機関交通機関

文化機関教育機関宗教機関

娯楽機関娯楽機関娯楽機関

マス機関の発展

に分類するもの

後(い)に示せば

七つと具作館(い)まへは一般場二軒

客五停車場四郵便局五学校

六寺社七映画館八商店九病院

の九曜の概(い)の各(い)かりサソフ

一(い)作(い)を(い)通(い)して(い)それ(い)か(い)上(い)班(い)と(い)下

線(い)ル(い)と(い)ん(い)な(い)つ(い)な(い)かり(い)を(い)ど(い)く(い)の(い)果

落(い)る(い)を(い)保(い)つ(い)て(い)み(い)か(い)を(い)ゆ(い)る(い)か(い)ら(い)ず(い)い

り(い)て(い)あ(い)る(い)。(い)後(い)場(い)の(い)如(い)き(い)は(い)か(い)め(い)か(い)

一(い)つ(い)て(い)あ(い)る(い)か(い)り(い)選(い)択(い)の(い)務(い)を(い)た(い)る(い)か(い)

交通(い)機(い)関(い)と(い)して(い)停車場(い)は(い)勿(い)論(い)

見(い)逃(い)し(い)た(い)ら(い)ず(い)と(い)して(い)も(い)私(い)人(い)知(い)る(い)者(い)も(い)あ(い)る(い)

他(い)に(い)も(い)色(い)々(い)考(い)へ

う(い)れ(い)よ(い)

又上級や下級に「者」の「同位」を「上」
支配される「同位」と「支配」する「同位」と
ではない。商店が上に対する「同位」
は仕入先の「同位」であり下に対する「同位」
は「同位」である。（技能的「同位」
としての職人の下に対する「同位」は
彼の技能を代償を拂つて買つて居る
得る人である。）（本書が「三」である）
（照）

（一）力による「同位」の調査項目——「力」
は「社会」の「構造」に「力」を「同位」する

る調査項目です。私は都市
の基本的集合集団は世帯と
職域集合集団及び学校集合
集団と見做す。余暇的集合
集団として生活拡充集合と地区集
合とあげておく。これらの各集合
に因りて調査はその都市の基
本的配置を明らかにするものである。
例へばその都市の大体の
性格を明らかにするにば、その都
市にある世帯に因りて調査世帯が
その都市の家族である。能く二世代家

⑤ その都市内の労働組合の
上級組織への加入率を

△ 新かこに云ふ都市の近代
化を測るのばねは同様の型
に於ける近代化を意味してみよう。
産業の種類や製造物に
よるものか近代化の程度は
同じとしてみよう。

昭和五世代末の比率や半世帯と
普通世帯の比率等と地域集団
に因する調査（調査員五百名）
上の金銭的支出の比率の調査
大抵その都市がどの程度近代化を
遂げているかを知る必要あり。また最も重要
であるのは労働組合の比率である。大抵その都市の
経済的発展を労働組合の運動の足跡から見ることは
可能である。都市の近代化の程度は労働組合の比率
と行政自治体と生業団体（商店
会）と同様に、労働組合（
の二種をあげよう）。これらの同
様にも調査の事は及ぼさなければ

たうぬ。

都市の近代化の歴史、都市の
生活力の振興をこゝにゆかりに
すれど。
本書が四巻より五
巻まで

(三) 戦後都市の生活構造に因りて
変遷する都市の現況を

（外部的的）

知いふ事とを把握するに付
以調査を必要とする。以ての續

市に於ては生活行爲と給与の制
をその都市内の
を主要な手段として
す。はたして又
又生活の生活地区

についての調査や都市位在関係
市利用国の調査が中心である。
よからぬ調査は都市の脈迫を
知ししめようという事である。

（日本書院九卷五号）

（八五号）

（今更の地）

経済的効果

以上五項目の調査は都市の調査に不可欠の調査であると思ふ
都市のアクセス・ザ・リール図
調査は限りなく増す、加えては
こゝには同じくしてみない。